

パンデミックあぶり出した社会の病理・第2報：

## 専門科学と社会との接点

2020年9月7日 富山 芳幸

### 1. 専門科学は遅れている？

専門科学は遅れている？ 7月豪雨のとき、線状降水帯の予報ができないことが話題になった。気象庁は、すでに何年も前から、その予報を開発課題にあげている。イギリス気象局には、予報改善に使う新しいスパコンのために12億ポンド（約1600億円）の予算がついた。この発表があった2月にはイギリスで大洪水が起きていて、この予算が洪水対策に効果があるのか話題になった。

専門科学はむしろ過剰だ、という見方もある。ジョージ・ブラウンは米国下院で、科学宇宙技術委員会を通じてNASA（米航空宇宙局）やNOAA（米大気海洋局）に関わってきたひとだ。その彼が、予報技術について、四半世紀前の米国物理学会誌にこんなことを書いている。「予報技術の発展が社会の安全につながるというのは幻想」である。「予報技術の発展に比べてその活用はあまりに遅れている」。予報は遅れているのではなく、むしろ過剰で、社会はそれを持て余している、というのだ。米国気象局も米国気象学会もこれを否定していない。むしろ、正面から受け止めて、予報と社会との接点について議論を重ねている。

### 2. 専門科学と社会との接点

遅れているのか、それとも過剰なのか。専門科学と社会との接点で作用しているミクロ力学を分析してみよう。

専門科学は間口の狭い零細専門店に分かれている。防災計画の専門家である長谷見雄二氏（早稲田大学）はこう語る。「自治体に水害リスクを正しく判断できる人材がおらず、限られた職員で対応するには限界があります。防災計画には学識者など専門家の意見を参考にする仕組みが必要です」（『日経ビジネス電子版』、2020年7月8日）。彼は正しいことを語っているのだが、残念ながらこの真理はプラクティカルな真実を欠いている。この零細専門店の呼び込みが自治体の耳に届いたとしても、自治体にとっては、防災関係だけでも、何十という同様の「専門家の意見を参考にする」ことが必要になる。何十という専門家は、その相談に対応してくれるのだろうか？ しかも、千を超える自治体があるのだ。

医療に「プライマリケア」という概念がある。専門医療に対する概念で、患者に医療との最初の接点を提供する機能である。この機能は、主として街のクリニックが担っている。だれでも気軽のそこを訪ねることができ、患者は、場合によっては検査を受けたうえで高度な専門医療を紹介されることになる。プライマリケアは医療の専門店を束ねてひとりの患者に向き合っている。災害にかんしても、専門科学の無数の零細専門店と気象庁を束ねて個々の自治体や住民、または事業所に向き合う機能が必要なのである。

### 3. 科学不信

線状降水帯の予報ができるようになったとして、社会がそれを持て余すことはないのだろうか？ 専門科学の一層の発展が必要なだけではない。専門科学と社会との境界で両者を媒介する機能が必要なのである。

それなしに専門科学の成果が社会の幸福度の増進に役立つと考えるのは幻想である。ブラウンが言うように、「予報技術の発展が社会の安全につながるというのは幻想」なのである。イギリス気象局についての12億ポンドの予算もまた、幻想を買う予算だということになりかねないのである。

真理は、しばしば、悪魔のことばだと受け取られる。ひとを救うのは専門科学の成果それ自体ではない。専門科学が血のにじむ思いで獲得した真理と成果は、舍利弗（シャリフツ）の眼玉のように、乞われて与えても踏みにじられかねないのである。格差と分断が増幅する社会では、このことにはとりわけ慎重な配慮を要する。真理と専門科学の成果が社会に寄与するには、真理を社会が必要としていることばに翻訳し、成果を、ほかの専門科学の成果とあわせて社会の必要のために統合することが必要なのである。この翻訳と統合を行う媒介機能がないとき、専門家は既得権益のなかに閉じこもることもできる。そうすると社会は専門家不信をつのらせる。それは科学に対する不信につながる。それがまさに米国で起こっていることである。

医療のプライマリケアにあたる、専門科学を翻訳し統合する媒介機能はさまざまな分野にあるが、まだ、圧倒的に不十分である。特に、モノ作りに偏ったこの国ではそうである。このパンデミックのさなか医療の分野でさえ、収入と患者数の減少でプライマリケアの提供が困難になっている。クリニックは発熱患者の診察を拒否せざるをえなくなっている。都内の新型コロナウイルス感染者を受け入れた病院では、9割が赤字に陥っている、という（日本病院会ほか、2020）。

### 4. 守るべきものと育てなければならないもの

パンデミックに対応するためには、社会は金と知恵を出してプライマリケア

を守らなければいけない。それだけでなく、専門科学と社会との最初の接点となる媒介機能を、防災をはじめさまざまな方面に育てていかなければならない。